

特41

107

三
五郎
娘
竹
郎
用
二

曲
馬
琴
著



こころを一日より。さうしてくくと東の空のまらぬ
 娘の涙はなる。さうしてくくと東の空のまらぬ
 くまされ。涙は入水やあつくと。くるとのくま
 のひらく。さうして入水やあつくと。くるとのくま
 ぬきぬねがはれど。その死骸を人知れぬまらぬ。今
 の世は。さうして入水やあつくと。くるとのくま
 月と一と七日の。さうしてくくと東の空のまらぬ
 と。さうして入水やあつくと。くるとのくま



心の惑ひよか
 死に極めて我家
 と忍び出る

る。かゝるおんをへて、父のこゝろをさぐりぬゆふうか、
 家へは、心かきおぼせと。いふに、これいふ金お、
 あら、お中のおくじあり。お、お、お、お、お、お、
 まるまるといふ。後お、お、お、お、お、お、
 つい、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 うあ、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 て。お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 よ、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

へ、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 の、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 よ、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 秋、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 破、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 連、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 実、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 ね、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

高橋年隆畫

如前所中



金五郎朋
友よ誘は
大磯の廓へ
赴く



長門月カコ

六



良竹用切中



良竹用切中



高橋年隆畫



大名霍妹よ
 由縁の金五
 郎の相方と
 多し我が身の
 薄命と語る

外郎月夜

高橋年隆畫



盡世友縁
みかた於亀
金五郎又
奇偶之

如良月夜中



とまゝぐよる業一と今宵のまづうぐらうの用らうと。そく
 み登一たもまづらぢ。まゝ登よらうまゝと大門と出が。あぢ
 又まて入一。ひさやふ頼儀をまゝ清のまゝう入ぢた。彼
 小まよらうらひ。二つ入より酒のまゝがら。今やまるとま
 如く登あくふまての機とままひ。うらぬ頼よてらまあく二階
 のまゝとまてと。ようまうん金糸帯の側入まよう。頼を金
 せんとまらうのま登たあてまんとまると金糸帯の目づつあぢ
 三つふとやらま登降る。れ清ま登まらうんまらうんお入。まら

あゝまゝぐらうなれど。おもまゝまゝと知ぬあつてまをまてのう。
 見くびつらうよのままはらあ入ぐの末練が拵つてまての。マア
 わ入園とがらううう下お拵らト
 まあぐとあたわらう金糸帯
 みるはあやまあぢが
 マア誰由まゝ。まらう一あつて男のおまゝまらうのまらうあぢ。よく
 物をほのつてまらうよ。大掃をゆそと相懸よ。まらうらみと入かッ
 てわらうど。まらうよはらうてこのまらうと。清つけよまらうあらうらまてま
 の上うら育られ。産の親より親の源い書ひ親の情と忘れ

東 京 圖 書 館

和書門

190
和書類

函

三
架

五
號

三
冊

